

平成29年度 アドバイザー派遣事業実施レポート

研究団体名	倉吉市初等教育研究会
実施期日	平成29年 8月 1日 (火) 13:30～16:45
実施場所	倉吉未来中心 小ホール
アドバイザーの 所属・氏名	東京学芸大学 教授 粕谷 恭子
研 修 内 容	
<p>演題：「これからの小学校外国語教育 ～児童・教員にとって本当の楽しさとは～」</p> <p>1 言葉の姿・丸ものさし</p> <ul style="list-style-type: none"> ○久埜百合先生（「えいごリアン」）の「久埜メソッド」から学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを英語のシャワーに浸らせる。 ○子どもの姿から学ぶ：子どもが2つ目の言葉を覚える仕組みをつかむ。 ○子どもが言葉を覚える仕組みは変わっていない。 <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ言葉を使うか→伝えたい・聞きたいから。 ・英語表現が生命を得る→言霊。（児童理解である） <p>2 4技能のとらえ方（基本として）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公教育での英語教育での下支え：小学校での「音声による受診」（使命） ○口から出てきたら「嬉しいな」と思う言葉を聞かせる。 ○「聞く」がしっかりすると、「話す」ができる。 ○「音と文字のつながり」に注目する。 <p>3 音声の役割：その恐ろしさを骨身に</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聞く甲斐のある音声をたくさん聞かせる。 ○英語によって、意味内容・音の流れ・文法を聞き手に届ける。 <p>4 新しい英語教育の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ○英語で危ない橋は渡らない：校種・学年での学習や活動を適切に行う。 3・4年→5・6年→中学→高校へと引き継ぐ。 <p>5 教師にとっての「楽しさ」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○負担が大きくなり、子どもたちの変化がわかる。 ○自分の英語のやり直しのチャンス <p>6 児童にとっての「楽しさ」を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じた「楽しさ」が必要 ○褒めすぎない。（嘘と支援は違う） <p>【まとめ】</p> <p>倉吉市では、来年度から教科としての英語を先行実施していくことになるのだが、専門的に学習したことのないほとんどの教員にとって、強く負担を感じ、また不安な気持ちになるところである。しかし、粕谷先生の講演をお聞きして、「そんなに難しく考えることはない。」「とにかく取り組んでみよう。」など、意欲を掻き立てられるような講演であった。</p>	